

～織田信長サミット2009に向けて～



小牧山

# 戦国に馳せる

岐阜市埋蔵文化財調査事務所

第14回 信長と岐阜(2)

所長 藪下 浩

フロイスの見た岐阜町

永禄11年(1568年)10月18日、足利義昭は天皇から征夷大將軍に任じられ、当面の目的は達成されました。しかし、信長は休む間もなく、岐阜城を拠点に天下布武の道を歩み出しました。

そんな永禄12年(1569年)5月(22日と推定)、岐阜を訪れた一人のポルトガル人がいました。その人の名はルイス・フロイス、数年前から日本に滞在し、積極的にキリスト教の布教を行ってきたイエズス会宣教師です。

フロイスは、すでに4月8日に京都二条御所建築現場で信長に面会し、キリスト教布教の承認を得ていました。しかし、信長が岐阜に帰国してからキリシタン排斥が激しくなり、再度許可を求めるために岐阜にきたのです。



再現された岐阜町の様子  
(岐阜市歴史博物館)

フロイスは、城下町で信長側近の大脇伝内が営む塩屋兼宿屋に逗留し

ました。当時の岐阜町は多くの人々が往来し、フロイスは「バビロンの賑わいに匹敵する」という言葉で繁栄を表現しています。

フロイスは滞在すること数日で信長館に参内し、信長自身による格別な計らいにより、新築間もない金華山頂の天主や山麓の御殿を案内されたのです。

フロイスは定期的にポルトガルのイエズス会へ日本のさまざまな情報を報告しています。後にポルトガルへ帰国したフロイスが、報告書や自身の記録を参考に日本滞在中の見聞をまとめたのがフロイスの「日本史」です。

フロイスが絢爛豪華と表現した信長館の様子はこれによりある程度知ることができま

発掘調査が語る信長館

平成19年、岐阜市は「信長の岐阜まち発祥440年」をキヤッチコピーに町作りを推進しましたが、その一環として金華山麓の岐阜公園内信長館跡の発掘調査を始めました。

信長館跡の発掘調査は昭和60年から始まり、数回の発掘調査の成果を踏まえて岐阜公園は信長縁の歴史公園として整備されました。

信長館への出入口と思われる部分は、岐阜市民が信長時代の息吹を感じることができる巨石通路として整備されています。

また、フロイスは、信長館にはいくつもの庭園や池があることを記録していますが、平成19(2008)年の発掘調査で園池の周囲に観られる「州浜」と判断する部分が発見されています。

さらに「3階には一種の茶室がある」と記録していますが、

谷間の最奥部で信長時代と思われる石垣が発見されました。この部分には茶室のような特別な建物が存在した可能性が十分にありま

す。信長が天下布武の拠点にした岐阜城は、国史跡を視野に入れた発掘調査により今後確実に明らかにされるでしょう。



信長時代の石垣の発掘調査



整備された巨石通路

問合せ先 文化振興課(☎76 1189)